

■ 今月号の主な内容 ■

P.2▶

【特集】第70回上福岡七夕まつり

P.4▶

【トピックス】

- 第24回おおい祭り
- ふじみ野市誕生20周年記念事業「キャッチフレーズ」「シンボルマーク」の募集
- 来年4月1日に採用予定の職員を募集します

P.8▶

【市民スポーツ大会】

P.10▶

【ベビーとキッズ】

P.15▶

【学びの掲示板】

P.18▶

【シニアライフ】

P.21▶

【情報アクセス】

P.32▶

【ふじみ野写真館】

【読者のひろば】

P.34▶

【各種相談】

【救急メモ】

裏表紙▶

【歴史さんぽ】

歴史さんぽ

百三五

埼玉の藍染めと紺屋

日本で伝統的に藍という青い染料をとるのはタデ科の植物です。藍草は、ゴマくらいの小さな種を3〜4月ごろにまき、5月に苗を植え替え、7月下旬から9月にかけて2回刈り取り、1週間ほど地面に広げて天日干しを行います。9月末から山盛りの藍草に水を含ませて発酵させ、1〜2週間ごとに道具を使ってひっくり返し、かきまぜて均等に発酵するようにします。12月に発酵した藍草のかたまりを臼でひき、団子状の藍玉を作ります。新一万円札の肖像となる渋沢栄一も藍玉の製造、販売を行っていました。

藍玉は、紺屋が買い取り、藍甕に入れて溶かし、温めて、発酵させて使います。紺屋は、藍液の色調や泡（華）というの様子、液をかき混ぜたときの音から染めが可能な「藍が建つ」状態を確認し、最初は捨てる寸前の薄い藍液に糸をなじませ、その後、段階的に濃い藍液につけて染めていきます。充分に染め上がった糸は、つるして、染めむらがなないように、たいては空気に均等に触れさせます。

市内にも紺屋が存在し、染めた糸を使って機屋が個性的な織物を生みだしてきました。伝統的な藍の栽培、藍玉づくり、藍染めの一連の工程について、埼玉県立歴史と民俗の博物館から提供された貴重な写真と市伝統の織物再現品を、7月28日(日)まで上福岡歴史民俗資料館で紹介しています。かつての郷土の藍染、織物の様子に思いをはせてみませんか。



▲伝統の織物再現品の展示

上福岡歴史民俗資料館

ACCESS

- 長宮1・2・11
- 上福岡駅東口から徒歩20分、ふじみん号Aコース「福岡小学校」下車徒歩1分
- 開館時間は午前9時～午後4時30分(月曜日と年末年始を除く)

上福岡歴史民俗資料館

(TEL049・261・6065)



来月号(令和6年8月号)は、7月30日(火)～8月2日(金)に配布する予定です。届かないときは、広報広聴課(TEL049・262・9003)へご連絡ください。



市役所案内

市ホームページ URL <https://www.city.fujimino.saitama.jp>

開庁時間 月～金曜日午前8時30分～午後5時15分(祝日・年末年始を除く。日曜日の休日開庁は35ページをご覧ください)

ふじみ野市役所 〒356・8501 埼玉県ふじみ野市福岡1・1・1 TEL 049・261・2611 FAX 049・266・6245

ふじみ野市大井総合支所 〒356・8555 埼玉県ふじみ野市大井中央1・1・1 TEL 049・261・2811 FAX 049・266・6271

ふじみ野市役所出張所 ふじみ野市サービスセンター2階
〒356・0006 埼玉県ふじみ野市霞ヶ丘1・2・7 TEL 049・261・0353 FAX 049・261・0785

2024(令和6)年7月号
市報ふじみ野 No.226
令和6年7月1日発行

【発行】ふじみ野市役所 TEL 049・261・2611

人の動き

令和6年
6月1日現在

人口 ▶114,448人(前月比-12)
男=56,526人(前月比-10)
女=57,922人(前月比-2)
世帯数 ▶55,066世帯(前月比+43)

UD
FONT

VEGETABLE
OIL INK

印刷：たつみ印刷株式会社